



平成 19 年 11 月 8 日

各 位

会 社 名 小野薬品工業株式会社  
代 表 者 名 代表取締役社長 是金 俊治  
(コード番号 4528 東証・大証第一部)  
問 合 せ 先 取締役広報室長 森本 公也  
(TEL : 06-6263-5670)

### 平成 20 年 3 月期通期業績予想の修正に関するお知らせ

最近の業績の動向等をふまえ、本年 5 月 14 日に発表しました平成 20 年 3 月期通期業績予想を下記のとおり修正します。

#### 1. 通期連結業績予想

(単位：百万円、%)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
前回発表予想(A)	147,300	55,800	58,100	35,300
今回修正予想(B)	146,000	51,700	54,500	35,500
増減額(B - A)	1,300	4,100	3,600	200
増減率	0.9%	7.3%	6.2%	0.6%
前期実績	141,711	52,841	56,587	35,271

#### 2. 通期個別業績予想

(単位：百万円、%)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
前回発表予想(A)	145,600	55,000	57,400	35,200
今回修正予想(B)	144,200	50,800	53,600	35,300
増減額(B - A)	1,400	4,200	3,800	100
増減率	1.0%	7.6%	6.6%	0.3%
前期実績	140,005	52,021	55,839	35,134

### 3. 修正の理由（連結決算）

- ・ 当初、今年度の売上高につきましては、中間期が前年同期比 4.4%増の 725 億円、また、通期では前期比 4.0%増の 1,473 億円を見込んでおりました。
- ・ 当中間期におきましても、主要製品を中心に積極的な学術情報活動に努めました結果、売上高は前年同期比 2.7%増の 713 億円となりましたが、当初計画に対しては 12 億円の未達となりました。
- ・ 当初計画に対して未達となりましたのは、気管支喘息・アレルギー性鼻炎治療剤「オノンカプセル」、気管支喘息（小児）治療剤「オノンドライシロップ」の売上が、それぞれ前年同期比では伸長（カプセル剤：1.4%増、ドライシロップ剤：5.8%増）したものの、今中間期の計画に対してはカプセル剤が 8 億円、ドライシロップ剤が 5 億円未達に終わったことによります。
- ・ その原因については以下の 2 つと考えております。
  - 1) 上期におきましては、末梢循環障害改善剤「オパルモン錠」の腰部脊柱管狭窄症領域での市場育成活動や、糖尿病性神経障害治療剤「キネダック錠」の潜在市場開拓活動に取り組みました結果、オパルモン錠は前年同期比 15 億円（9.0%）増の 184 億円となり、キネダック錠も前年同期比 1 億円（0.8%）増の 89 億円と、前年同期の実績を何とか維持することができました。また、これらの活動に加えて本年 6 月に新発売しました過活動膀胱治療剤「ステープラ錠」について積極的な情報提供活動に取り組みましたが、一方で、「オノンカプセル」や「オノンドライシロップ」への活動入力はやや低下したものと考えております。
  - 2) 昨年、気管支喘息の特許が満了となり、本年 7 月より後発品が上市された「オノンカプセル」および「オノンドライシロップ」については、後発品の影響を当初は下期以降に想定しておりましたが、後発品使用促進策の予想以上の浸透により、そのマイナス影響が早期（7 月）から顕在化いたしました。
- ・ 下期につきましては、6 月に新発売しました「ステープラ錠」の売上が徐々に業績に寄与いたしますし、「オパルモン錠」の腰部脊柱管狭窄症領域での市場育成をさらに進めるとともに、「キネダック錠」についても引き続き潜在市場の開拓に努めます。昨年 10 月に手術後の頻脈性不整脈の効能が追加された「注射用オノアクト」は、効能追加領域を含めた評価の確立を進めることでより一層の市場拡大を図ります。さらに、急性肺障害治療薬「注射用エラスポール」は、説明会や学術講演会を積極的に実施するなど、本剤への評価確立を一層進めるべく取り組みます。

- ・ 本年7月から後発品の影響が顕在化した「オノンカプセル」と「オノンドライシロップ」については、研究会や学術講演会の開催を中心に情報提供活動を強化することにより、特にアレルギー性鼻炎の領域で市場拡大を図り、後発品によるマイナス影響を最小限に留めるべく取り組みます。
- ・ しかしながら、今後も後発品使用促進策のさらなる浸透や、競合品との競争激化の影響が想定を上回る可能性もありますことから、今年度通期の売上高について、当初の予想（前期比4.0%増の1,473億円）を13億円下回る1,460億円（前期比3.0%増）に下方修正し、その達成のために努力したいと考えております。

(注) 上記の予想は、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成しており、実際の業績は、今後様々な要因によって予想数値と異なる場合があります。

以上